

評議員会議事録

【評議員会議事録】

日時：2003年1月25日(土) 11時～17時

場所：国立天文台 大会議室（南研1階）

出席者：井上，海部，加藤，小山，柴田，須藤，舞原，牧島，吉井，家，池内，石黒，木下，高津，小杉，佐藤（勝），谷口，松田，渡部 以上19名

欠席者：太田，岡村，千田，高橋，高原，福井，佐藤（修），中村，野本，長谷川，林 以上11名

有効委任状提出者：太田，岡村，千田，高原，佐藤（修），野本，長谷川 以上7名

他に理事会から，祖父江，若松，杉山，郷田，関井，松原，蜂巢，及び，東條事務長が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した。

議長：牧島一夫

署名人：家 正則，加藤万里子

報告

1. 前回議事録の確認（資料1）郷田理事より前回（2002年10月8日）の評議員会議事録が報告され，承認された。
2. 2002年度早川幸男基金援助者選考結果の報告（資料2） 前選考委員会委員長須藤評議員より，申請者数42名，採択者数24名であったことなど，2002年度の選考結果について報告があった。
3. 今後の年会について 2003年春（東北大学）・秋（愛媛大学），2004年春（名古屋大学）・秋（岩手大学，国立天文台水沢）の予定であると決定している。谷口評議員より2003年春の準備状況が報告された。2003年秋，2004年春・秋については郷田理事より，準備状況について報告された。
4. ALMA要望書の提出について（資料3） 郷田理事より，前回の評議委員会の議決に基づいて，ALMA要望書を文部科学大臣宛に11月25日付けで提出したことが報告された。また海部評議員より，ALMAの予算的見通しについて説明があり，その後意見交換が行われた。
5. 日本の科学を病弊させるトップダウン政策の見直しを（資料4） 池内評議員より，12月に出された天文研連からの表記の声明について報告があった。研連名で出すことが規約違反であったことから，吉川学術会議会長より注意処分を受けたが，各方面への反響は大きく，声明を出した効果も認められる。加藤評議員より補足があり，その後意見交換が行われた。これに関連して，海部評議員より，学術分科会，大学共同利用機関特別委員会での，「今後の学術推進体制検討に関する要望」に関する背景説明，に関する報告があった。さらに学術会議全体としての対応に対して佐藤（勝）評議員より質問があり，池内氏より第四部での議論の進捗状況について報告がされた。また，学術会議のあり方に対する懸念が海部氏より出された。
6. 小柴先生の講演会共催について 郷田理事より，物理学会年次大会中に行われる総合講演会（3月30日(日)，仙台国際センター）に天文学会も協賛となることが，前期の天文学会理事会，及び物理学会理事会で決定していることが報告された。この講演会の参加に限って，天文学会員であれば登録料が不要となる。天文月報3月号に詳細な案内が掲載される予定である。池内評議員から，学術会議（天文研連，物研連，宇宙空間研連）主催のシンポジウムも5月14日に学術会議講堂で行われる予定

であることが報告された。また、天文学会が共催に加わることにに関して、その場で理事会に対して要請を行った。

7. 記念出版事業と編集委員会について（資料5） 郷田理事より、現在の進行状況について報告があった。岡村評議員が編集委員長に選出され、編集委員会の編成や今後のスケジュールの検討などが行われている状況である。可能ならば、3月の理事会において、岡村編集委員長からの提案を受けた上で編集委員を決定し、評議委員会、総会で編集委員が報告される予定である。
8. UAPについて（資料6） 郷田理事より、状況説明が行われた。係争中であったが、2003年1月20日に時効が成立した。相殺するために当てる予定であった92万円は、雑収入に組み入れる。
9. その他
 - (1) 男女共同参画学協会 連絡会参加について 前天文教育理事の加藤評議員から、設立の経緯および天文学会も正式参加した旨報告があった。今後アンケートなども予定されている。理事会からの今後の参加メンバーは理事会で検討する。
 - (2) IAU京都総会記念基金会計の終了と内規の廃止(資料13) 郷田理事より、事情説明があった。

議 題

1. 天体発見賞、研究奨励賞、林忠四郎賞、欧文報告論文賞、天文功労賞の2002年度の各受賞者の決定（資料7）

この議題に限り、受賞対象者になっている牧島議長に代わって、松田理事長（評議員）が議長となった。

天体発見賞選考委員である渡部評議員より、天体発見賞、天体発見功労賞、及び天文功労賞候補の選考結果が報告された。天体発見賞13件、天体発見功労賞5件、天文功労賞2件（長期的な業績1、短期的な業績1）であった。天体発見賞に関して、候補者に宇宙飛行士の土井氏が入っていること、プロジェクトが候補になっていることなどについて説明があり、意見交換の後に、それぞれ下記のような受賞者が満場一致で決定された。

続いて、前年度の研究奨励賞選考委員長である蜂巢理事より、研究奨励賞候補者の選考結果が報告された。3件の推薦であった。意見交換の結果、北山氏の研究テーマの字句については、後で訂正することとなったが、推薦どおり、満場一致で下記のように決定された。最後に、林忠四郎賞選考委員である海部評議員より、林忠四郎賞及び、欧文報告論文賞の候補者の選考結果が報告された。林忠四郎賞1件、欧文報告論文賞1盾であった。意見交換を行い、満場一致で下記のように決定された。

天体発見賞：佐野康男、広瀬洋治、串田麗樹（2件）、土井隆雄、MISAOプロジェクト、

長谷田勝美（2件）、板垣公一、池谷 薫、宇都宮章吾、鈴木雅之、工藤哲生の各氏（13件、11名）

天体発見功労賞：村上茂樹、藤川繁久、中村祐二、広瀬洋治、串田麗樹の各氏（5名）

天文功労賞：長期的な業績として広瀬敏夫氏、短期的な業績として早水 勉氏（2名）

研究奨励賞：大西利和、北山 哲、小久保英一郎の各氏（3名）

林忠四郎賞：福井康雄氏（1名）

欧文報告論文賞 受賞論文名：Metal Abundances in the Hot Interstellar Medium in Early-Type Galaxies Observed with ASCA, 著者：松下恭子, 大橋隆哉, 牧島一夫の各氏（1件, 3名）

2. 2002年度事業報告書案（資料8）

2002年度事業報告書案を郷田理事が説明し、質疑応答の後、一部字句の修正の上、同報告書案は承認された。

3. 2002年度収支決算報告書案（資料9） 2002年度収支決算報告書案を松原理事が報告し、質疑応答の後、同報告書案は承認された。

4. 監査報告（資料10） 2003年1月9日に実施された監査の結果、上記事業報告書案及び収支決算報告書案が正当であると認められたことを監事の代理として杉山理事が報告し、評議員会としても了承した。

5. 会費未納者の除名について（資料11） 2001年度会費より会費を滞納している、正会員11名、準会員9名、団体会員1団体が郷田理事より紹介され、除名が承認された。

6. 第19期日本学術会議会員候補者選挙について 郷田理事より、選挙が中止となった経緯について説明があった。2月14日に学術会議からの会員候補依頼に関する説明会があり東條事務長が出席の予定である。次に、池内評議員（学術会議会員）より、19期は結局これまでと同じやり方で選出を行うことに決まったとの報告があった。そこで、説明会前ではあるが緊急に選挙を行う方向で進めることとする。日本学術会議からの今後の急な依頼に関しては、通常の方法では対応できないので、やむをえない場合については、選挙結果に基づく候補者の決定と推薦人の決定を選挙に関する内規とは異なる処置を理事会の判断で行っても良いことが承認された。持ち回りの評議員会が必要となった場合には、今回の議長である牧島評議員がまとめ役を勤めることとなった。海部評議員から、月報の記事として学術会議の問題点について書いたものを載せるべきとの意見がだされ、池内氏に状況説明の執筆を依頼した。

7. 内地留学奨学金に関する内規改訂案（資料12） 郷田理事より、内地留学奨学金選考委員会西村委員長からの第4条「留学希望年度の前年の9月末までに」を「留学希望年度の前年の別途公示する期日までに」に変更するという提案が報告され、議論の後、承認された。

8. 天文学会各賞・基金の英文名（資料13） 郷田理事より、英文名の案（資料13）が報告され、議論の後、原案の人名の部分 を日本語の順、具体的にはThe Hayashi Chushiro Prize, The Hayakawa Satio Fundに変更したものが承認された。

9. その他

(1) 民間財団等の賞の推薦方法について

郷田理事から、理事会で検討した結果が報告された。理事会、評議員会、各賞の委員会に、改めて、推薦を積極的に行ってもらおうという結論であった。これまでに行ってきた月報への掲載以外にも、最低限メイリングリストなどを用いて賞の推薦 応募の周知徹底を行うべきである、理事長、副理事長や林 忠四郎賞選考委員会の下に委員会をつくるべきだ、などの意見が出された。結局、理事長、副理事長、林 忠 四郎賞選考委員会に選考の権限を与えるとともに、推薦も積極的に行ってもらおうこととなった。

(2) 自薦のみの若手対象の賞について

郷田理事より、自薦のみの若手対象の賞に関する、理事会での議論が報告された。結論としては、新たに別な賞を作る必要はないが、理事会、評議員会、各賞

の選考委員会に、改めて、推薦を積極的に行ってもらうための理事長名での依頼を行う、というものであった。意見が交わされたが、現行の奨励賞の枠が3名に増えたこともあるので、当面は推移を見守る、ということとなった。

(3) 欧文報告論文賞応募方法の簡略化について (資料14)

蜂巢理事から、推薦要項を簡略化し、推薦しやすくするとの提案があり、質疑の後に、了承された。

(4) Mt. Stromlo火災の件

杉山理事より、理事会での議論で、1) 英文のお見舞いの手紙を出すこと、2) 天文学会の予算からfundに供出すること、3) 天文学会が募金を集める、という3つの提案があることが報告された。1)の英文の手紙に関しては、理事長が責任をもって個人で書くということになった。海部評議員より、2)、3)は天文台、スタッフ、学生の3つに対する寄付がすでに募られている、各個人レベルでこの寄付を行えばよいのではないか、という意見が出された。意見交換の結果、学会としては、web上での寄付が行われていることの周知を行うとともに、2003年春季年会会場において天文台の再建に関する寄付を集め、学会名で送金することとなった。

(5) 若手に対する年会出席の旅費補助について

松原理事より、正会員(学生)が増加し、賛助会員が減少している現状では、旅費補助に費やす予算が厳しくなっていることが報告された。今のままでは、充足率が20%程度になってしまう。高津評議員より若手の声が報告された。補助はやはり欲しい、遠方からの参加だけに出すことは良いのではないか、早川基金から回せないか、などの意見が紹介された。このうち、早川基金は、寄付されている方の意志により、別の目的には使えない。柴田評議員より、時代が変わってきているのだから、ここで一度制度そのものを見直すべきではないか、との意見がだされた。旅費補助が本当に必要な会員はいったいどれだけいるのか、もう一度調べてくるようにとの依頼を高津評議員をはじめ若手の会の推薦を受けている評議員に行った。

(6) 総合科学技術会議による査定に対するの声明文について (資料15)

声明文の原案について、松原理事から説明があった。それを受けて、声明文の提出先や内容に関して、次のような意見交換を行った。少なくとも理学全体からサポートされる内容にしたい、我々の「利益集団」以外からも認められる内容であるべきである、我田引水になっている部分が問題である、基礎科学の重要性を強調すべき、天文研連の声明を繰り返しても意味がない、トップダウンとボトムアップの定義が明確でない、前回の評価に対する苦言よりも次への提言があるべきである、トップダウンの具体的問題点を指摘すべき(例えば、一部の人間に多すぎる予算が配分される)、学会としてやるならもっと一般の人にアピールするものにすべきである、総合科学技術会議を否定するのではなくそれを良いものにしていくべき、関連学会の研究者をターゲットとすべき、などの意見が出された。牧島議長から、なぜトップダウンの政策が一人歩きすることになったのか、それによってどのような弊害がおきているのか、我々としてどうしていくべきなのか、を考えるべきである、とのまとめが述べられた。他の学会、例えば物理学会と一緒に出せばインパクトがより大きなものになるとの意見がだされ、会長声明レベルで連携する可能性を探ることとなった。具体的に、理事長、副理事、佐藤(勝)評議員、池内評議員、海部評議員の6名の特務委員会を設置することが決まった。委員長は松田理事長が勤める。

(7) 次回以降の日程

次回の評議員会は、春季年会中の3月25日(火) 昼休み、次々回は7月5日(土), 国立天文台で行うこととなった。

2003年2月19日

議長 牧島一夫 印
署名人 家 正則 印
署名人 加藤万里子
印

天文学会各賞、基金の英文名称について 庶務理事

1月25日の評議員会で、天文学会各賞・基金の英文名称が、以下のように決まりましたのでご報告致します。

天体発見賞 The ASJ Award for the Discovery of New Objects

天体発見功労賞 The ASJ Award for the Independent Discovery of New Objects

天文功労賞 The ASJ Award for the Outstanding Achievement by Amateur

研究奨励賞 The ASJ Young Astronomer Award

林忠四郎賞 The Hayashi Chushiro Prize

欧文報告論文賞 The PASJ Excellent Paper Award

早川幸男基金 The Hayakawa Satio Fund

2002年度日本天文学会各賞について

2002年度日本天文学会各賞の受賞者と受賞項目は、1月25日の評議員会で次の通り決定されましたのでご報告致します。

◎ 天体発見賞 (13件11名)

- ・佐野康男 (さの やすお) 氏 : 超新星2002anの発見
- ・広瀬洋治 (ひろせ ようじ) 氏 : 超新星2002apの発見
- ・串田麗樹 (くしだ れいき) 氏 : 超新星2002crの発見, 超新星2002fkの発見
- ・土井隆雄 (どい たかお) 氏 : 超新星2002gwの発見
- ・MISAQプロジェクト : 2001年のケフェウス座の新星らしき天体の発見
- ・長谷田勝美 (はせだ かつみ) 氏 : 新星 へびつかい座V2540の発見, 新星 いて座V4743の発見
- ・板垣公一 (いたがき こういち) 氏 : NGC 205 (=M 110) の新星らしき天体の発見
- ・池谷 薫 (いけや かおる) 氏 : 周期彗星153P/2002 C1 (Ikeya-Zhang)の発見
- ・宇都宮章吾 (うつのみや しょうご) 氏 : 彗星 C/2002 F1 (Utsunomiya)の発見
- ・鈴木雅之 (すずき まさゆき) 氏 : 彗星 C/2002 O6 (SWAN)の発見

・工藤哲生（くどう てつお）氏：彗星 C/2002 X5 (Kudo-Fujikawa)の
発見

◎ 天体発見功労賞（5件）

・村上茂樹（むらかみ しげき）氏：彗星 C/2002 E2(Snyder-
Murakami)の独立発見

・藤川繁久（ふじかわ しげひさ）氏：彗星 C/2002 X5 (Kudo-
Fujikawa)の独立発見

・中村祐二（なかむら ゆうじ）氏：新星へびつかい座V2540の独立発見

・広瀬洋治（ひろせ ようじ）氏：超新星2002boの独立発見

・串田麗樹（くしだ れいき）氏：超新星2002dbの独立発見

◎ 天文功労賞（2名）

・広瀬敏夫（ひろせ としお）氏：星食・掩蔽の観測と指導（長期的な業
績）

・早水 勉（はやみず つとむ）氏：土星の衛星テティスによる掩蔽の観
測指揮(短期的な業績)

◎ 究奨励賞（3名）

・大西利和（おおにし としかず）氏：名古屋大学大学院理学系研究科・
助手

研究テーマ：「おうし座における星のない分子雲コアの観測的研究」

・北山 哲（きたやま てつ）氏：東邦大学理学部・講師

研究テーマ：「銀河団の多波長観測による観測的宇宙論」

・小久保 英一郎（こくぼ えいいちろう）氏：国立天文台理論天文学研究
系・助手

研究テーマ：「惑星系形成過程の理論的研究」

◎ 林忠四郎賞（1名）

・福井康雄（ふくい やすお）氏：名古屋大学大学院理学研究科・教授

研究の表題：「星間分子雲の網羅的観測による星形成初期過程の研究」

◎ 欧文報告論文賞（1件3名）

・受賞論文名：Metal Abundances in the Hot Interstellar Medium in
Early-Type Galaxies Observed with ASCA (Publ. Astron. Soc.
Japan, Vol.52 pp.685-710. 2000)

共著者：松下恭子, 大橋隆哉, 牧島一夫の各氏

以上